
2019 年度活動方針

1. 京都支部の当面の課題

日本科学者会議の目的が、科学の社会的機能を探求し、科学者の社会的責任を果たすことにあることに鑑み、軍学共同反対、学問の自由・大学の自治・憲法九条の擁護、原発ゼロ・自然エネルギー拡大をスローガンに、安倍内閣が進める大学政策、教育政策、エネルギー・環境政策、経済政策に焦点をあて、それらの分析を通じて安倍内閣の危険性を明らかにし、警鐘を鳴らす。そのために、各大学や研究機関などの民主的団体との連携を深めていく。会員減少の対策として、支部活動の活性化、ならびに各団体の主催する講演会や学習会に積極的に参加し、会員拡大をおこなう。

2. 日常活動の強化・継続

- (1) 幹事会・ワーキング会議の定期開催：引き続きそれぞれ月 1 回定期に開催する。
- (2) 『支部ニュース』の発行および『日本の科学者』の発送：毎月のニュース発行および機関誌発送業務を維持する。
- (3) 『京都の科学者』の発行：事務局が編集を担当し、年 1~2 回発行する。
- (4) 会費の徴収：会費の徴収は事務局の重要な任務である。滞納会員を出さないように、事務局と各会員との連絡を密にする。会費の早期納入（6 月末までに 50% 納入）を確立する。
- (5) 会員の拡大：会員を増やすことが安倍政権を追いつめる極めて有効な手段であることに確信をもちつつ、JSA の活動に理解を持つ医師、弁護士、高校教員、退職者および大学教員・若手院生にどんどん声をかけていく。
- (6) 『日本の科学者』読書会の開催：月例読書会を開催する。参加者の増加をはかる。
- (7) 支部ホームページ：京都支部の会則、基本文書、支部の見解などの広報と共に、支部や分会の企画、研究会の案内を掲載する。

3. 分会活動の強化

若手研究会：2019 年度の若手活動の方針は引き続き全国の院生との連携を深めながら、若手にとって魅力のある企画を増やしていくことである。夏の学校の参加をきっかけに入会してくれた会員をとのつながりを維持するためにも定期的に研究会や意見交換等の議論する場を設けることが重要である。今年度は同年代の院生が数人入会してくれる可能性が高いので彼らを中心に研究会を組織できるように努力する。

女性研究者分会：2019 度は、支部内の女性会員ときめこまかく接する機会をつくり、女性研究者のかかえる問題と支援施策の実態と課題をさらに明らかにしていきたい。

- ・女性会員の研究室訪問による「ミニ懇談会」を開催する、
- ・支部ニュースに女性研究者問題と対策についての論稿、女性会員の研究・執筆文献の紹介等を掲載する、
- ・22 総学の女性研究者・技術者分科会「不安定雇用の女性研究者の実情」の討論内容を、京都の実情にてらして検討し、支部としての今後の活動を計画する、
- ・さまざまなつながりをいかして科学者会議への理解を広げ、会員拡大につなげる。

自然科学懇談会：支部における貴重な理科系活動を行う分会として、引き続き会員・非会員の個人の研究内容を紹介するとともに、時期や社会情勢に応じた幅広いテーマでの講演会や研究会を企画したい。また、現役や若手研究者の研究発表を重視したい。

関西懇京都分会：1. 今年も、例年通り、毎月の例会と、夏合宿を基本に取り組む。
2. テーマについて、一般の人にもなじみやすい関心のある話題提供をしていきたい。
3. 毎回チラシを作成し、近畿地区ニュース、大阪支部ニュース、京都ニュースに予告記事を記載してもらい、報告要旨もそれぞれに投稿していく。
4. 全国の民間企業技術者・研究者問題委員会に代表を送り、全国の取り組みにも参画していく。（委員会とシンポジウムを年2回開催）。

5. アベノミクスの下での民間企業リストラ、憲法改正、軍事研究・開発動向、現場の状況などがどのようになっているかを調べ、これら下での研究者・技術者の要求を明らかにする。また地球温暖化問題、東電福島第一原発事故と原発再稼働問題、環境問題、リニア新幹線問題、災害と復興、安全に関わる企業の偽装問題、沖縄の基地問題、水道民営化問題などにおける研究者・技術者の役割を議論する。研究者技術者の過労死・自死の根絶、地位向上にも努める。原発問題研究会：原発は核兵器と同根の絶望技術である。一刻も早く廃棄しなければならない。原発再稼働反対、原発即時廃棄に向けた運動を強める。福島原発事故の被害者ならびに事故からの避難者を支援する活動をつづける。22 ミリシーベルトの危険性を暴露すると同時に、小児甲状腺がんの被ばく発症を国や福島県に認めさせ、被ばく者救済の運動に取り組む。

龍谷大学分会：引き続き地域と連携した活動（脱原発や憲法改悪阻止などの催し）を進めるとともに、この間取り組めていない分会独自の活動を進める。また、分会活動の活性化のために会員の拡大に取り組む。

工織大分会：2018年3月に会員1名の定年に伴う職場異動で現任教員が1名となり、存亡の危機を迎えているが、OB教員や地域住民とともに「松ヶ崎科学トークカフェ」を含めて学内の活性化を図りながら、会員や『日本の科学者』の読者を拡大する。学内で休止状態となっている「安保法制反対有志の会」と連携した活動をめざす。

4. 近畿地区との連携強化

近畿地区協議会ならびに『日本の科学者』近畿サポーター会議との連携を強化し、近畿地区各支部と共同した研究会や学習会の開催をめざす。

5. 他団体との連携共同

以下の団体と共同して活動を進める。

- (1) 安倍 9 条改憲 NO ! 全国市民アクション・京都
- (2) 憲法 9 条京都の会
- (3) 原発ゼロをめざす京都ネットワーク
- (4) 原発ゼロをめざす左京の会
- (5) 原発を考える伏見フォーラム
- (6) 原発ゼロをめざす城陽の会
- (7) バイバイ原発きょうと実行委員会
- (8) 大飯原発差止訴訟・京都脱原発原告団
- (9) 原発賠償訴訟・京都原告団を支援する会
- (10) 核兵器廃絶ネットワーク京都
- (11) 非核の政府を求める京都の会
- (12) 科学トークカフェ松ヶ崎の会
- (13) 大学評価学会
- (14) NHK 問題京都連絡会
- (15) 城陽の水と土を考える会
- (16) 国土問題研究会